



仙果作
箱

足利絹
年深丸
巻

六編上

錦林
壽坊



嘉永三年
成春葭敷

何のむらぎ

六編上

美亭仙果作
一陽高豊園會

六回至

新刊



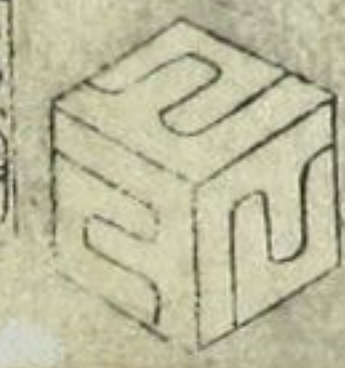
足利絹手深紫六編序

藤末葉ハ長シモヤカニ若葉ハ細小揃事ても扱々長井が居合ハシメ刀
扱々丈ちをつる者畧越トク志中ハ意猫の細を切テ駈出させても
いゝ有念といふ人あれどもその其程とハ色も感得深返下の本意はあは
た之竹を張てハ一殿の袖ヲ引子日の野邊の小ね糸末々中を以て違ふる其儀
成解物正月法抄法録ある記學で及ぶ大場も熟深とありき
師匠の由縁是が實の面影と御見捨あく所寛の程只管願ふと
いふ事計肩籠とる推枝少くゆく序ハ念と經く記す

嘉永三年庚戌正月吉日

柳亭門人

竹立亭仙果



浄書女名

足利絹手



い
は
な
し

女三宮お比まろ
前征夷大将軍
足利義満公
養女
三會日姫



若人のんたひらき
よゆのよきき縁の
いふいふいふいふいふ
あまのせ
あ

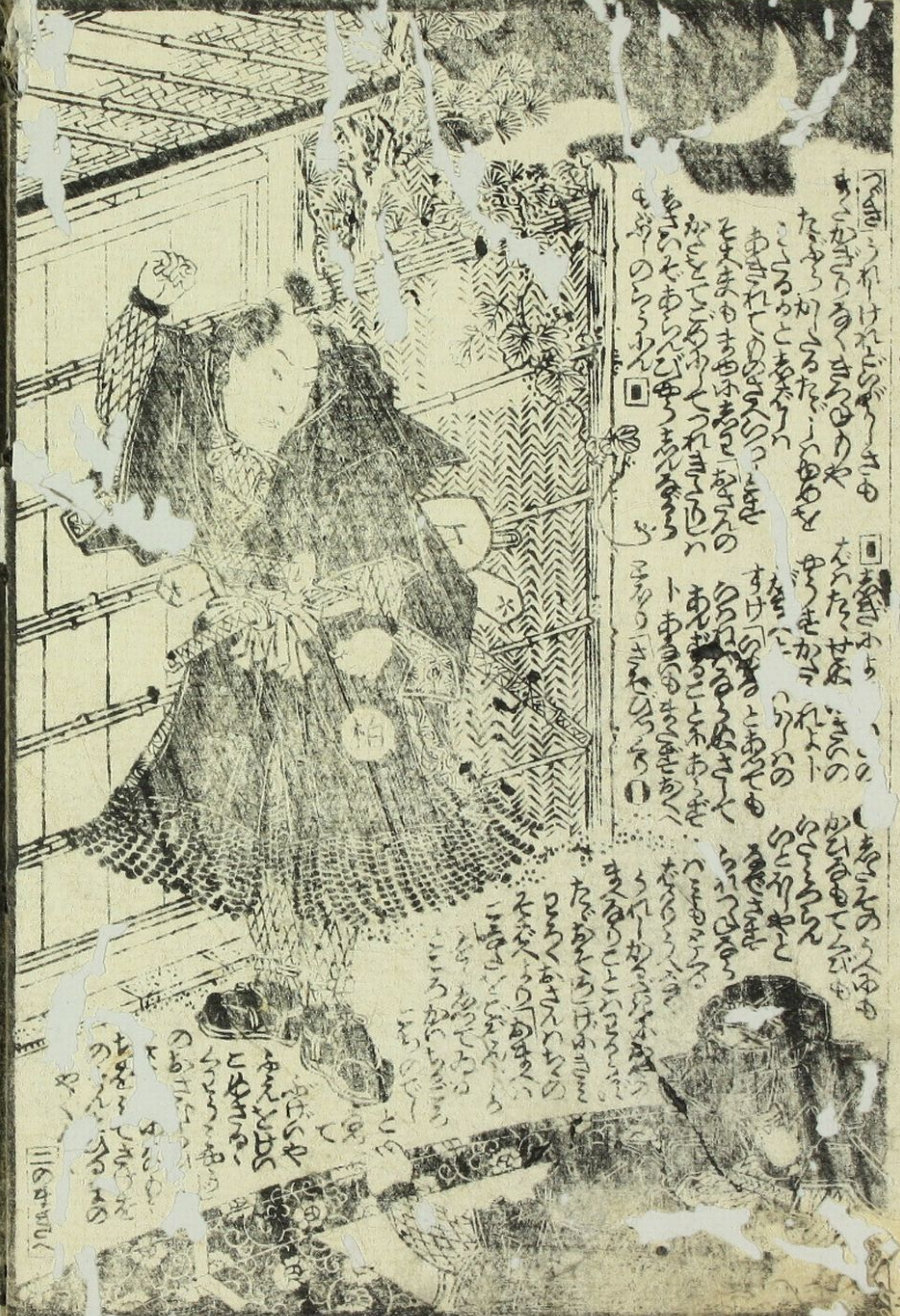
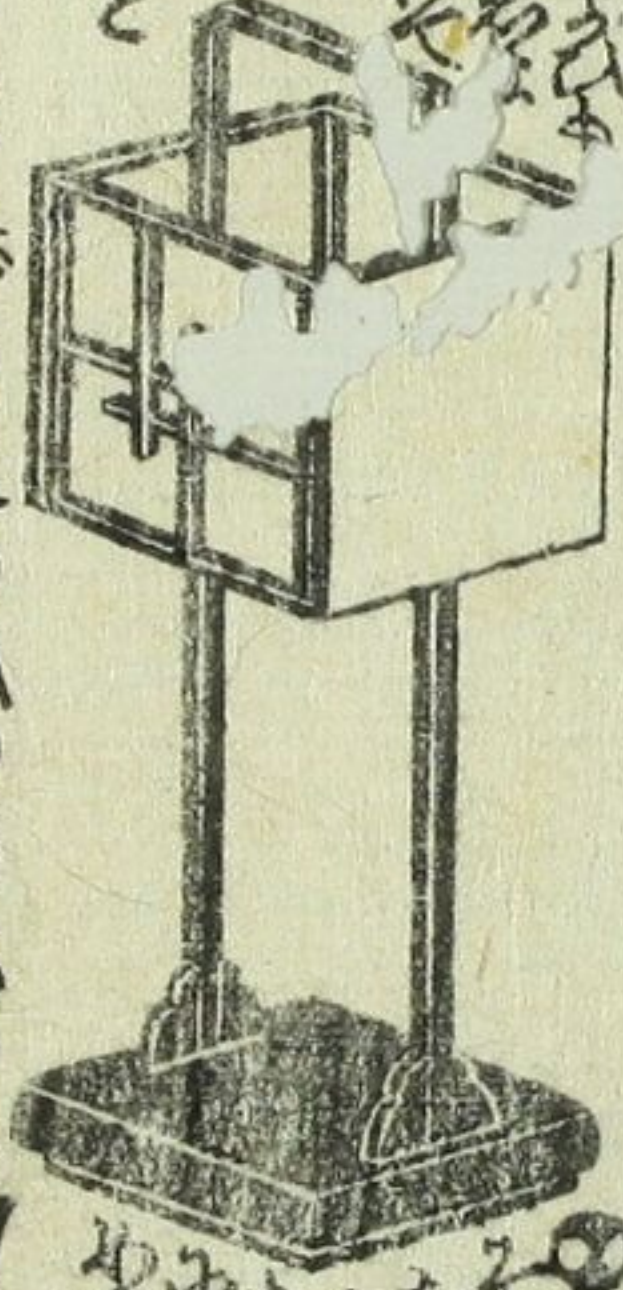
あ
ま
の
せ
あ

三會日姫の
ゆけ
中里

此の物語は、昔の事だ。ある朝、ある村に、
 一人の老翁が居た。その老翁は、
 村の長老で、皆の事を思つて居た。
 一日、村の集まりで、
 老翁が、皆に話した。

老翁は、
 村の長老で、
 皆の事を思つて居た。
 一日、村の集まりで、
 老翁が、皆に話した。

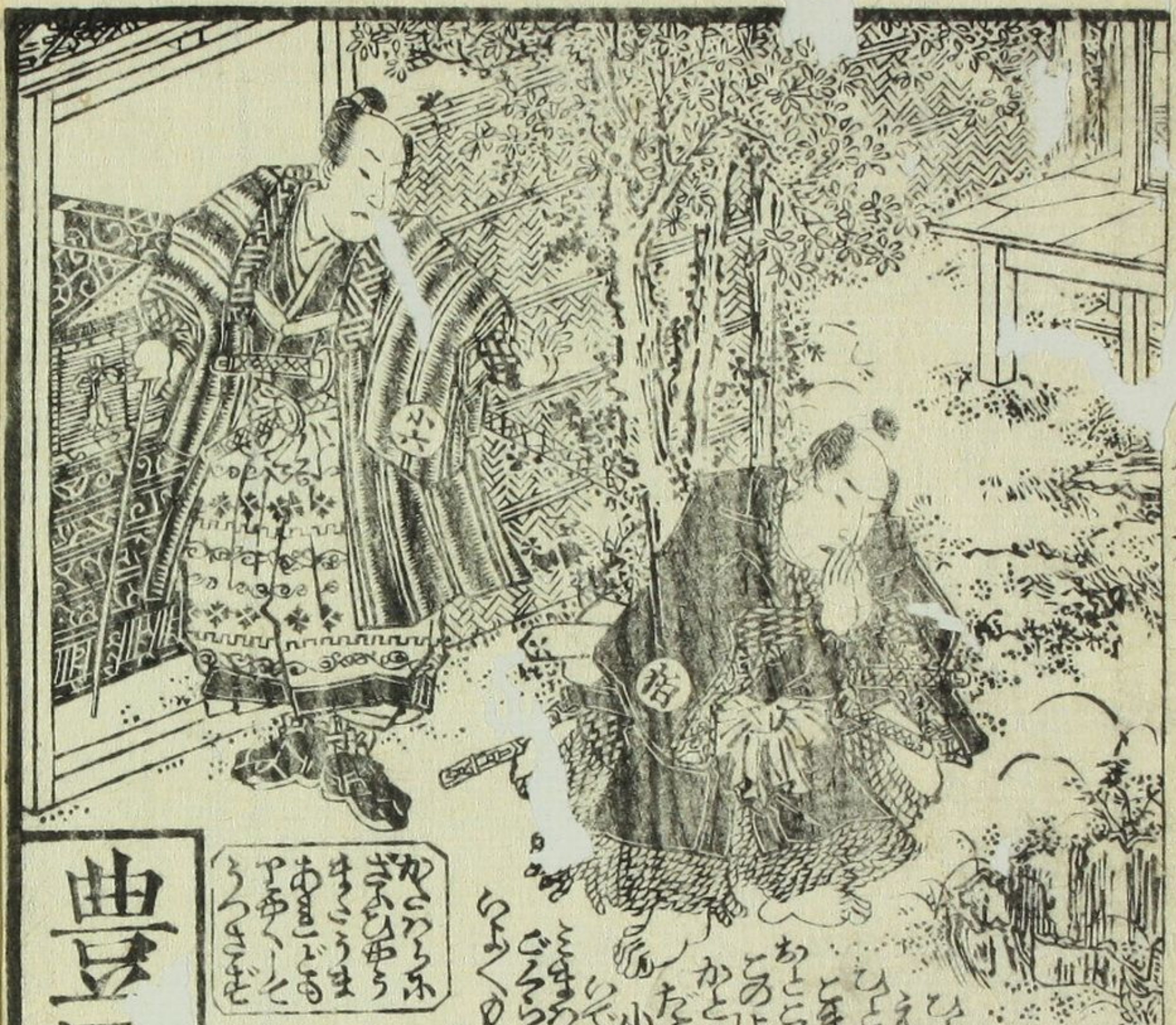
老翁は、
 村の長老で、
 皆の事を思つて居た。
 一日、村の集まりで、
 老翁が、皆に話した。



老翁は、
 村の長老で、
 皆の事を思つて居た。
 一日、村の集まりで、
 老翁が、皆に話した。

老翁は、
 村の長老で、
 皆の事を思つて居た。
 一日、村の集まりで、
 老翁が、皆に話した。

老翁は、
 村の長老で、
 皆の事を思つて居た。
 一日、村の集まりで、
 老翁が、皆に話した。



豊國画仙果作

此の巻は、豊國画仙果の作。仙果は、豊國の画仙として知られる。此の巻は、仙果の画を収めたものである。仙果の画は、その筆致の雄渾と、その構図の巧みさで知られる。此の巻は、仙果の画の精華を収めたものである。仙果の画は、その筆致の雄渾と、その構図の巧みさで知られる。此の巻は、仙果の画の精華を収めたものである。

新刻 校正 御江戸昌平町鑑 全三冊出版

朱字細註 横本

半紙摺 薄用摺

教訓浮世めがね 全三冊

万亭應賀作 溪齋英泉画

兩筋戀は山道 全二冊

万亭應賀作 一勇齋國芳画

勸善懲惡 兼合噺 七編 八編

柳下亭種員作 一陽齋豊國画

刊行書肆 東都 錦林堂

嘉永三年新年彫



新
庚戌

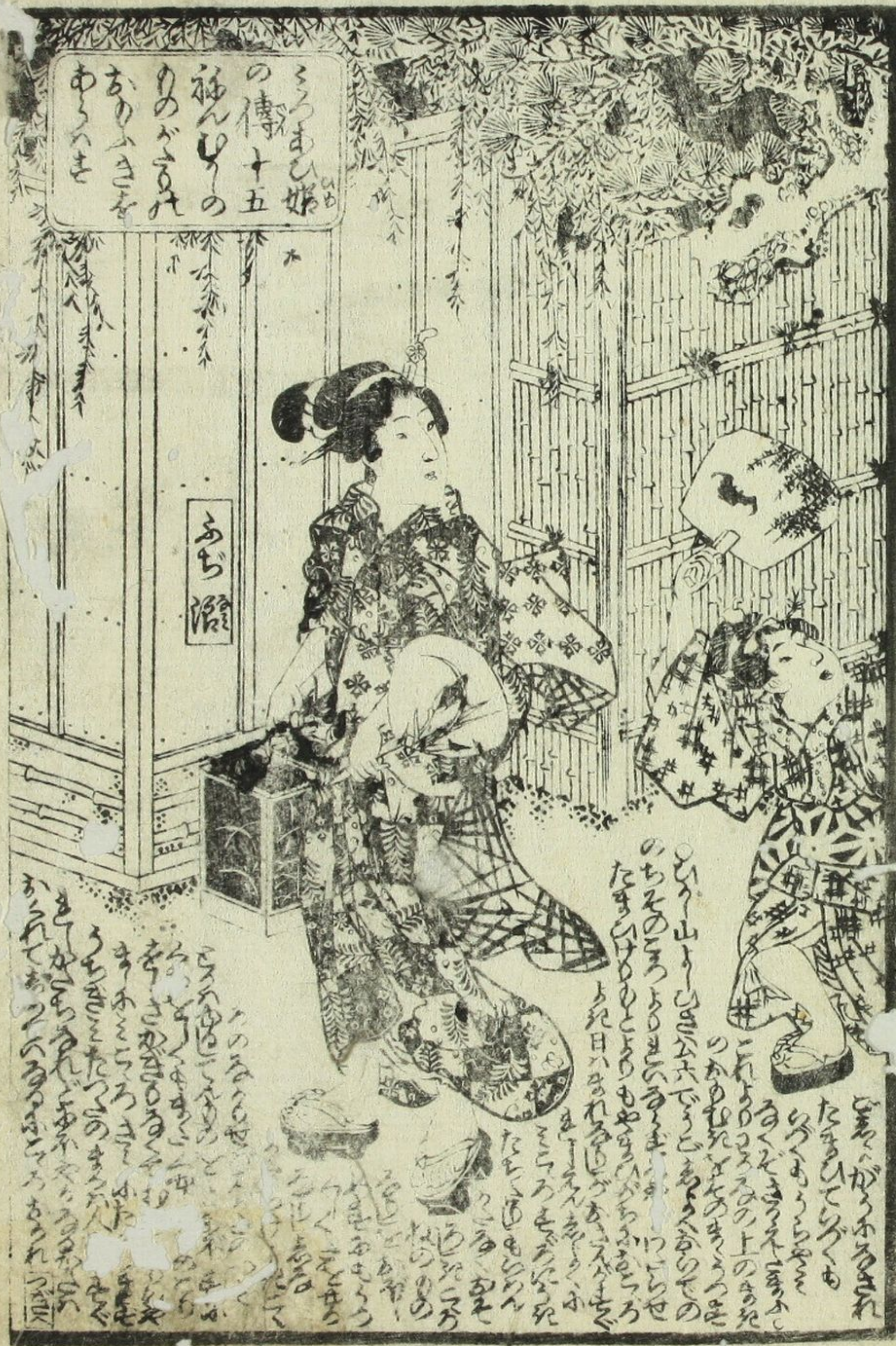
豊
園
書

六
編
下



くらまひ姉
 の傳十五
 神ひの
 のかまひ
 ちのふきを
 ちのふきを

あぢ



くらまひ姉の傳十五
 神ひののかまひちのふきを
 くらまひ姉の傳十五
 神ひののかまひちのふきを
 くらまひ姉の傳十五
 神ひののかまひちのふきを



茶道基

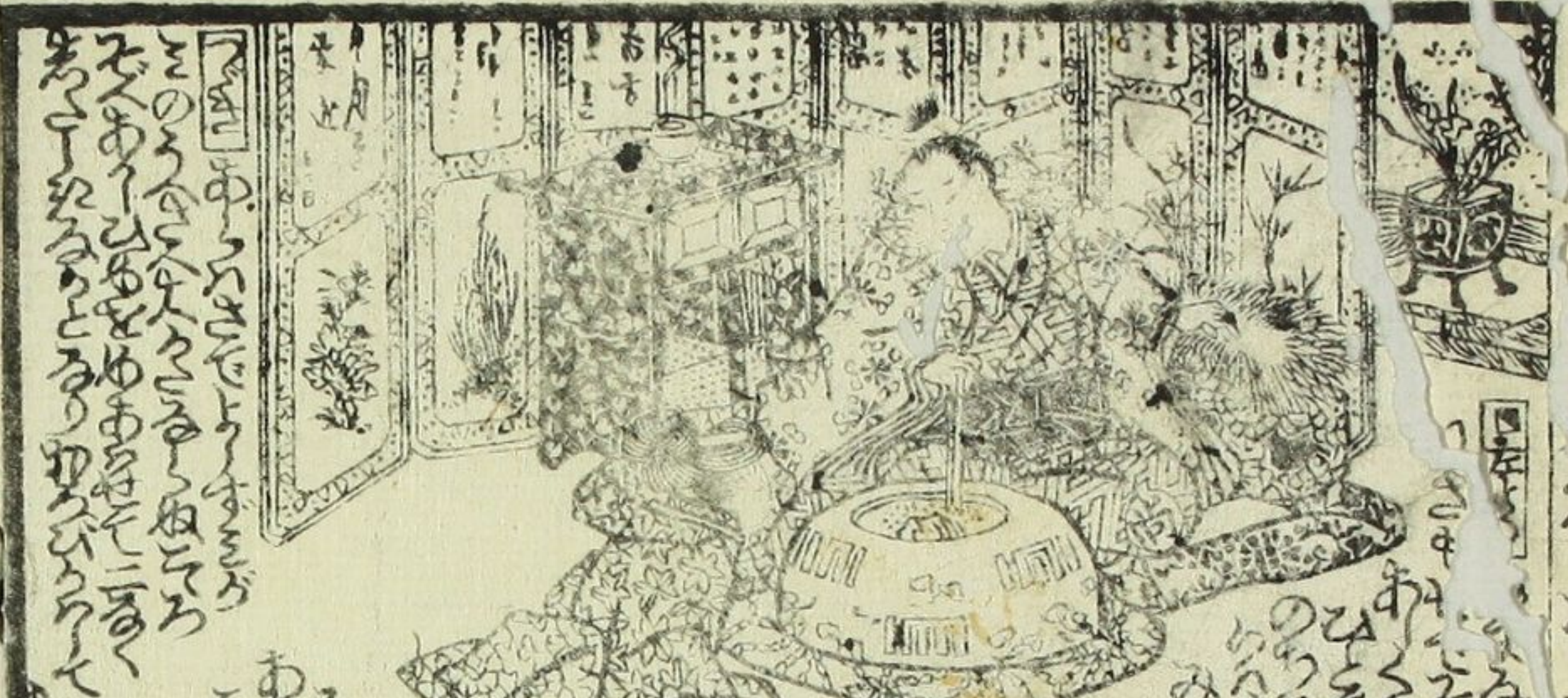
くらまひ姉の傳十五
 神ひののかまひちのふきを
 くらまひ姉の傳十五
 神ひののかまひちのふきを
 くらまひ姉の傳十五
 神ひののかまひちのふきを



かたけ賢人君子は...
あつたかたけ賢人君子は...
あつたかたけ賢人君子は...



あつたかたけ賢人君子は...
あつたかたけ賢人君子は...
あつたかたけ賢人君子は...



あつたかたけ賢人君子は...
あつたかたけ賢人君子は...
あつたかたけ賢人君子は...



Handwritten Japanese text in kuzushiji script, arranged in vertical columns below the illustration. The text appears to be a dialogue or a narrative passage related to the scene above.



Handwritten Japanese text in kuzushiji script, arranged in vertical columns below the illustration. The text appears to be a dialogue or a narrative passage related to the scene above.

Vertical text on the right edge of the page, likely a page number or a chapter reference.

Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration on the right page.



Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration on the left page.



Handwritten text on the left margin of the left page.

Handwritten text on the left margin of the left page.

嘉永三年戊辰春新版

仙果作
國芳画
雅源氏東國初旅 第四編
東海堂梓行

元版

神田鍛冶所 二丁目
太田屋佐吉

諸藝術目見雙六

万亭應賀作
歌川豊國画

深模様仕立雙六
同作
同画

六編七編八編 當戊辰年表出板落家業の末より老業のよき色
の心形を様指の条中を狂言中を記書しを作者画との骨抄のりもろん
彫るにも格かお落仕様成美作、仕を更かきめろふお形作の所来、うらや
錦林堂敬白

其由縁鄙面影改題
足利紡手條子
柳亭種彦翁門人
笠亭仙果作
一陽齋豊國画



仙果作豊國画

